

研究室内セミナー

講師；

新生会いしい記念病院内科部長

長嶺 敬彦 先生

平成27年12月18日

第30回日本歯科心身医学会（2015年7月18日）の教育講演が非常に刺激的だった長嶺先生を招聘し、研究指導をお願いしました。

長嶺先生は自治医大ご卒業後、永く精神科単科病院の内科診療に従事され、ドパミンを中心とした精神薬理を新しい切り口で講究されており、数多くの論文や著作を発表されています。大学院生のデータと一緒に見て頂いて、今後の解析の進め方などをご指南頂いた後に、下記のような多岐にわたるトピックスを噛み砕いてお話し頂きました。

日本で1番になるには

お金とは何か？；進化心理学からみた信仰心の意義

刺激なき像の形成；シャルル・ボネ症候群（幻視）

身体的痛みと社会的痛み

マシュマロテスト

デフォルトモードネットワーク

意識の生成

細菌叢の変化と精神症状の改善；Bacterial Translocation

家族 APGAR

脳は運動するためにある

歯科心身医学はこれからピラミッド型の学問大系の構築を目指すのではなく、何か別の学問との融合で発展を目指す道もある、これからは Uncommon Presentations of a Common Disease に着目すると面白い、といった斬新な方法論の御指南を頂き、具体的に英語文ソフトや細菌学的アプローチや心理社会的背景の評価ツールなどをご教示頂きました。

ついつい先生のお話に聞き惚れて30分以上超過してしまい、急いで懇親会（兼忘年会）へ急ぎました。



沖縄料理を肴に、研究の質問から仕事論まで和気藹々といろいろな話に花が咲きました。来年に向けてたくさん宿題を頂き、大変有意義な1日となりました。

